

令和 6年 1月 22日

報道機関 各位

富山大学 芸術文化学部 特別プログラム
ハッカーズから学ぶ芸術経営学Ⅲ

「ハッカーズから学ぶ芸術経営学」は、富山大学芸術文化学部が主催するアートマネジメント人材育成プログラムです。従来のアートマネジメントの枠組みでは、アーティストなどの『つくり手』とキュレーターや学芸員などの『つなぎ手』は役割が分業されることが一般的ですが、既存の制度や枠組みの中では実現が難しい表現活動においては、『つくり手』『つなぎ手』双方の視点を融合した実践能力が必要であると考えられます。本プログラムでは、『つくり手』『つなぎ手』双方の視点を持ち合わせた表現者たちを、文化芸術分野における「ハッカー」に見立て、彼ら（＝ハッカーズ）の独自の実践と方法論を学ぶことで、これからのアートマネジメント（芸術経営学）のあり方を考えます。

今回は、アート・デザイン・エンターテインメントなど、幅広い分野を横断しながら、技術と表現の新しい可能性を探究するクリエイティブチーム・ライゾマティクス代表の石橋素氏。アートコレクティブとして表現活動を行う「つくり手」の姿と、既成の枠組みを超えたコラボレーションワークを通して新しい価値を紡ぎ出す「つなぎ手」の姿。2つの姿を併せ持つライゾマティクスのこれまでの足跡を辿りながら、これからのアートマネジメントのあり方について考えます。つきましては本イベントに関して、取材・報道方宜しくお願い申し上げます。

記

特別講演「ライゾマティクスのつくり方」（定員：40名）

日 時 | 令和6年1月24日(水) 15:00 - 17:00
プログラム |

・第1部 15:00-15:50

「ハッカーとしてのライゾマティクス：テクノロジー X 表現の可能性」

・第2部 16:00-16:50

「リンカーとしてのライゾマティクス：地方・都市・世界をつなぐ情報発信のあり方」

場 所 | 富山大学高岡キャンパス E-150 演習室

(〒933-8588 富山県高岡市二上町 180 番地)

参加費 | 無料 (特設サイトより要事前予約)

登壇者 | 石橋素氏 (エンジニア/アーティスト。ライゾマティクス共同 主宰)

* 要事前予約

下部に記載の参加申込フォームよりお申し込みください。

参加申込フォーム

<https://forms.gle/379goJPWpBvXQTjcA>

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学芸術文化学部「ハッカーズから学ぶ芸術経営学」事務局

TEL : 0766-25-9111 (9:00-17:00) Email : arthack@tad.u-toyama.ac.jp

富山大学 芸術文化学部 特別プログラム

ハッカーズから学ぶ 芸術経営学

III

Art Management Learning from Hackers

既存の制度や枠組みの中では実現し難い表現活動がある。
それをセルフプロデュースによって乗り越える「ハッカー」たち。
彼ら（ハッカーズ）の独自の実践と方法論から、
これからのアートマネジメント（芸術経営学）のあり方を学ぶ。

ライゾマティクス
石橋 素
Motoi Ishibashi

特別講演

「ライゾマティクスの作り方」

2024年1月24日(水) 15:00-17:00

場 所 | 富山大学高岡キャンパス E-150 演習室

〒933-8588 富山県高岡市二上町 180

参加費 | 無料 (定員 40 名) * 要事前予約

参加申込フォーム

<https://forms.gle/379goJPWpBvXQTjcA>



「ハッカーズから学ぶ芸術経営学」特設サイト

<http://www3.u-toyama.ac.jp/arthack/>



富山大学 芸術文化学部 特別プログラム
ハッカーズから学ぶ
芸術経営学 III
Art Management Learning from Hackers

特別講演

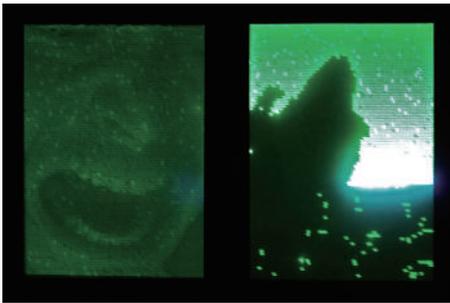
「ライゾマティクスの作り方」

2024年1月24日(水)
15:00-17:00

場 所 | 富山大学高岡キャンパス E-150 演習室
〒933-8588 富山県高岡市二上町 180
参加費 | 無料 (定員 40 名)
* 要事前予約。下部に記載の参加申込
フォームよりお申し込みください。

プログラム |
第1部 15:00-15:50
ハッカーとしてのライゾマティクス：
テクノロジー × 表現の可能性
第2部 16:00-16:50
リンカーとしてのライゾマティクス：
地方・都市・世界をつなぐ情報発信のあり方

アート・デザイン・エンターテインメントなど、幅広い分野を横断しながら、技術と表現の新しい可能性を探究するクリエイティブチーム・ライゾマティクス代表の石橋素氏。アートコレクティブとして表現活動を行う「作り手」の姿と、既成の枠組みを超えたコラボレーションワークを通して新しい価値を紡ぎ出す「つなぎ手」の姿。2つの姿を併せ持つライゾマティクスのこれまでの足跡を辿りながら、これからのアートマネジメントのあり方について考えます。



真鍋大度 + 石橋素 (fadeout) 2011 年
Photo: 真鍋大度



真鍋大度 + 石橋素 (particles) 2011 年
写真提供: 山口情報芸術センター [YCAM] 撮影: 丸尾隆一 (YCAM)



ELEVENPLAY x Rhizomatiks (border 2021) 2021 年
Photo: 廣田比呂子



Rhizomatiks x ELEVENPLAY (24 drones) 2015 年
Photo: 本間無量

参加方法

参加を希望される方は、右のフォームより
お申し込みください。
* 各講座定員に達し次第受付を締め切ります。

参加申込フォーム
<https://forms.gle/379g0JPwvBvXQJtcA>



ライゾマティクス

石橋 素

Motoi Ishibashi

エンジニア / アーティスト。ライゾマティクス共同主宰。1975 年生まれ。東京工業大学制御システム工学科、国際情報科学芸術アカデミー (IAMAS) 卒業。卒業後フリーランスとして、当時まだ一般的には認知されていなかったインタラクティブな映像を用いてショーウィンドウや広告制作を行う。2006 年頃より本格的にメディアアート作品を制作開始。主な作品は『Pa++ern』『fadeout』『particles』など。山口情報芸術センター [YCAM]、NTT InterCommunication Center [ICC]、ソナー、アルスエレクトロニカなど、数多くのイベントや美術館で展示。2010 年頃からはその活動領域をエンターテインメントにひろげ、ミュージックビデオやコンサート、大規模なショーなどにおけるテクニカルパートを担い、ライブパフォーマンスにおいて高度なシステムによる新たな表現を実現。ハードウェア、デバイス制作を主軸に、映像だけでは実現できない空間、体験を作り続ける。2011 年『第15回文化庁メディア芸術祭』アート部門優秀賞受賞、同年『Prix Ars Electronica』インタラクティブ部門準グランプリ受賞。2022 年より愛知県立芸術大学メディア映像専攻特任教授。

事業概要

本プログラムでは、『作り手』『つなぎ手』双方の視点を持ち合わせた表現者たちを、文化芸術分野における「ハッカー」に見立てます。
ハッカーの如く、高度な手法や思想で課題をクリアする彼ら (=ハッカーズ) の独自の実践と方法論を学ぶことで、これからのアートマネジメント (芸術経営学) のあり方を考えます。

アクセス



● 電車、バスをご利用の方 [新高岡駅より] 城光寺運動公園行きバス、「富大高岡キャンパス」下車、徒歩 1 分 / [高岡駅より] 城光寺運動公園、または二上団地行きバス、「富大高岡キャンパス」下車、徒歩 1 分 ● 自動車をご利用の方 [能越自動車道] 高岡北 IC から約 10 分 ● 駐車場 無料

お問い合わせ |
富山大学芸術文化学部「ハッカーズから学ぶ芸術経営学」事務局
〒933-8588 富山県高岡市二上町 180
TEL: 0766-25-9111 (9:00-17:00)
MAIL: arthack@tad.u-toyama.ac.jp

